

第15回大口町地域交通推進会議（大口町地域公共交通会議）議事録

日時 平成30年1月15日

午後13時30分 開会

場所 大口町役場3階第5委員会室

◇出席委員

松尾幸二郎会長 岡孝夫委員 倉知敏美委員（職務代理者） 山田吉昭委員
近藤幸男委員 前田一紀委員 大森邦代委員 酒井貞夫委員 井上英俊委員
杉本忠久委員（代理 廣瀬氏） 馬場輝彦委員 桑原良隆委員（代理 浅井氏）
古田寛委員（代理 栗木氏） 松浦秀則委員 工藤彰郎委員

◇欠席委員

山田敏也委員 富田和憲委員 大口町副町長（不在）

◇出席職員

地域協働部長兼町民安全課長 鶴飼嗣孝
町民安全課 課長補佐 岩崎義宏
町民安全課 主事補 平子靖子

◇議 事

1 開会

進行 町民安全課課長補佐 岩崎

2 会長挨拶

松尾幸二郎会長

3 町長挨拶

都合により欠席、地域協働部長兼町民安全課長 鶴飼嗣孝

4 協議事項（詳細別紙）

（1）大口町コミュニティバス事業報告及びアンケート結果報告

（2）大口町コミュニティバス更新計画について

（3）大口町コミュニティバス ダイヤ等改正（案）について

（4）大口町コミュニティバス 無料DAY運行（案）について

5 その他

6 閉会

◇協議事項

(報告事項)

(1) 大口町コミュニティバス事業報告(平成28年度、平成29年4月～29年11月)及びアンケート結果報告

報告者:事務局 町民安全課主事補 平子

【資料1-1、1-2、別紙①、資料1-3に基づき報告】

■平成28年度大口町コミュニティバス事業報告

1 目的

「コミュニティバス運行サービスの質を低下させることなく運行経費に係る町負担額の低減を図る」

2 前年度(平成27年度実績)

町負担額とは、運行経費から運賃や運行支援費・広告料、県の補助金などの収入を差し引いたもの。
平成27年度の町負担額は3751万7312円。一般利用者数は12万3920人。

3 目標

4 活動計画

「4活動計画」に基づき平成28年度の目標を設定した。
近年の実績を考慮して、昨年度に比べて目標値の増減を行った。

5 実施状況・結果

(1) 運行支援協定

運行支援費は9社及び江南市の全10団体から合計372万円の収入

(2) 有料広告の掲載

有料広告はバス停標識が継続30基で合計180万円の収入で、車内広告が運転席後部2枠で4万2500円の収入、車両ラッピングは固定枠、出来高枠、マグネット広告を合わせて93万1600円の収入となった。

(3) 協定企業のニーズの把握と利便性向上の取り組み

協定企業からの要望により、基幹ルートの朝便・日中便および北部ルートの朝便の時刻を改正した。また、利用者の利便性を考慮し、平成29年4月1日から、1日乗車券の小分け販売を開始した。

6 協働事業

特定非営利活動法人「まちねっと大口」と協働で、平成24年度にコミュニティバスの応援ボランティアを一般から募集し、コミュニティバスサポート隊(通称バスサポ隊)を結成。
利用者側からの目でコミュニティバスの利便性向上を目指し、乗車人数の更なる増加を目的に活動を続けている。

平成28年度には、町内を巡るバスツアーの企画・実施（6月6日に実施、参加者14名）、ふれあいまつりでのコミュニティバスブースの出店やバス停調査等の活動を行い、コミュニティバスの利用促進と利便性向上を行っている。

6 効果の確認

平成28年度の運行経費→5858万8272円

収入計→2074万1500円

差し引いた金額である3784万6772円が平成28年度の町負担金額。

3「目標」のとおり、町負担額3840万円台の目標に約55万円長負担額を低減。

○運賃収入に関して

「一般運賃収入」…現金での利用や、一日乗車券・回数券の販売売上の合計

「パスカード収入」…各協定企業の利用者数に応じて発行し、月ごとに請求する

現金収入・回数券・パスカード収入は前年に比べ増加したが、一日乗車券は減少

→現金・回数券収入の増加は、コミュニティバスが暮らしの足として定着してきていること、また現金の利用者が増加から町外の利用者が増加している可能性が考えられる。

パスカード収入の増加は運行支援協定企業のニーズを把握し反映したダイヤ改正ができたことが要因として考えられる。

運賃収入 約103万円の増加（前年度比108.45%、目標比108%）

広告収入 約3万5千円の増加（前年度比101.29%、目標比90%）

運行支援収入 約21万円の減少（前年度比94.66%、目標比100%）

乗車人数 約2600人の増加（前年度比100.5%、目標比102%）

7 反省・今後の進め方

バスサポ隊と連携し、利用者の満足度向上を引き続き図っていく。

平成29年度目標 乗車人数 13万人（平成28年度実績比102.7%）

町負担額 3848万円台（平成28年度実績比101.7%）

収入額 2082万円（平成27年度実績比100.4%）

■平成29年度コミュニティバス実績報告（平成29年4月から平成29年11月まで）

差引実質町負担額は3919万4664円となり、目標額を約71万円達成できない見込み。

○見込み額

運賃収入見込み 1300万5100円（目標まで約38万不足見込み）

運行支援費見込み 345万円（目標まで27万不足見込み）

広告収入見込み 234万6400円（目標まで約35万不足見込み）

補助金見込み 100万円（目標達成）

収入計 2010万1500円（目標まで約71万不足見込み）

※差引実質町負担額…運行経費から料金収入と町収入を差し引いたもの

○11月までの実績と昨年同月比

現金収入	347万8300円 (99.05%)
1日乗車券収入	16万8000円 (70.59%)
回数券収入	275万2000円 (112.23%)
パスカード収入	214万2800円 (95.79%)
合計(運賃収入)	854万1100円 (101.21%)
乗車人数	8万3361人 (96.14%)

○別紙①大口町コミュニティバス 中部ルート一部ダイヤ変更について

平成29年9月4日より町道内津々線の封鎖により、大口町内の各所で渋滞が発生し、コミュニティバスの午前7時台から午前8時台の運行便に大幅な遅延が発生した。また、その遅延により運行支援協定企業の始業時刻に到着が間に合わず、その後の運行車両の接続先である基幹ルートにも遅延が及んだ。そのため、関連する運行支援協定企業と協議し、その結果、別紙①のとおりダイヤを改正したことを報告。

■大口町コミュニティバス アンケート結果報告

ふれあいまつり内のコミュニティバスサポート隊のブースにて、来場者に対しアンケートを行った。総回答数は92で、資料1-3のとおり各設問について集計を行ったもの。

<質疑応答>

- ・【松尾会長】資料1-1の協働事業にもあるようにバスサポ隊について、話を聞かせてほしい。
→【前田委員】バスサポ発足当初の理念は、利用者をいかに増やして大口町の財政負担を減らすかである。大口町は公共交通がなくマイカー利用者が多く、コミュニティバスの利用が少ない一般の町民に利用してもらうかを考え、コミュニティバスが町民の足となり町民のためになることを目標にしている。月に1度会議を行い、アイデアを出し合っている。その中でベンチを設置し、メンテナンスを行ったり、町内の企業に協力をいただいてバスツアーを企画・実施したりしている。コミュニティバスを使っている方の不満を把握し、使っていない方への利用促進につながるという目線で活動を行っている。
- ・【松尾会長】資料1-2の乗車人数は、パスカード含めた人数か。それならば、今後、パスカード利用者を除いた乗車人数を出すことはできないか。
→【平子主事補】来年度以降そのようにします。
- ・【岡委員】資料1-2にある年間乗車人数は、28年度と29年度を比較した場合、29年度は減っているのではないか。
→【平子主事補】減っている。
→【岡委員】その要因としては。

→【鵜飼課長】主な乗車人数減少の原因としては、大口町の特徴として通勤利用があるが、大口町内の渋滞による到着時刻の遅延によりバス利用が減ったことが挙げられる。そのため、ダイヤを改正する等の対応をし、10月以降は乗車人数が戻りつつある。

・【岡委員】アンケート結果報告について、サンプル数が少ないのではないか。一概にこの結果を信頼することはできないのではないか。

→【平子主事補】総回答数92人というのは、ふれあいまつり内のバスサポート隊のブースに来た方に対してとったものである。今後、アンケートの調査について検討していく。

→【前田委員】24年度のアンケートは300以上の数をとっている。今回は、アンケート裏面の免許返納の意見を主に取りたかったことから、条件を絞ってアンケートを行った。また、今回は人手が足りずアンケート調査に手が回らなかった。

→【鵜飼課長】後述する無料DAY運行の際、実際に乗った方に対してアンケートを行い、意見を伺う予定である。

→【松尾会長】バスに乗っている人、乗っていない人それぞれの意見や希望を調査することが必要であり、目的を明確にしてやるということがまず必要である。

・【岡委員】行政経営報告書で高齢者に対するモニター調査を通年でやるということだったが、結果があれば教えてほしい。

→【平子主事補】現段階ではまだ行っていない。平成30年度以降行い、また報告します。

・【松尾会長】アンケートの自由記述欄について、「次の停留所を表示してほしい」等の意見をきっかけに実態がどうなっているのか調査することも可能であるし、「回数券のサービスがあるといい」という意見について、既存のサービスであるため認知不足を表している可能性があるため、次のアンケートに盛り込むなどの利用に有用ではないかと考える。

(承認事項)

(2) 大口町コミュニティバス更新計画について

報告者：事務局 町民安全課 岩崎課長補佐

【資料2に基づき報告】

1 更新計画について

コミュニティバスの運行を開始してから10年以上経過し、バス車両の劣化が進んでおり、車両の故障が多く発生していることから、車両の更新を計画的に行う必要がある。平成28年6月から運行会社であるあおい交通株式会社と打合せを行い、更新計画を作成したものである。

2 車両更新時期

資料2の2ページ「各車両の今後の走行距離見通し」を算出し、順次更新していく予定である。

3 車両の選定

現行のバスと同様のものを選択した。平成30年は日野ポンチョに更新する予定である。なお、それ以降の更新する車両については、新型の車両が出る可能性等を考慮して検討していきたい。

4 購入方法

町所有のケースとあおい交通株式会社所有のケースを検討したところ、あおい交通株式会社所有の場合、代車使用料や修繕料がかからず運行経費の平均化ができること、資料2の4ページのとおり②あおい交通株式会社所有のケースの方が運行経費が安いと、あおい交通株式会社所有で更新を行う。

・【松尾会長】音声合成システムは、バス停を通過すると自動で流れるのか。

→【工藤委員】ドアを閉め走り出すと自動で流れる。乗り降りがない場合は、運転手が主導で切り替える。

→【松尾会長】時刻の記録はできるのか。もしそれができれば、今回の遅延によるダイヤ改正の評価に使うことができ、効率的になるのではないかと。

→【工藤委員】今回導入する音声合成システムではできない。しかし、他の市町でバスロケーションシステムを導入しており、利用者が携帯電話でバスの現在地を確認することができる。問合せに対する確認等でお客様を待たせる必要がなく、将来的に導入できるとよいと考えている。

→【松尾会長】以前はバスに特別な機器を設置していたが、最近ではバスの中にスマートフォンを置くことで可能であり、設置コストはそこまでかからない。そういったものがあると利用者の安心材料が増え、また様々な検証データを取得することができる。

(3) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正案について

報告者：事務局 町民安全課 平子主事補

【資料3、別紙②に基づき説明】

■改正案

- ①ダイヤの改正
- ②バス停の廃止
- ③バス停の新設

■変更時期

- ①、②、③の全てを平成29年4月1日から変更する。

①ダイヤの改正

(1) 基幹ルート

○朝便

- ①運行支援協定企業の利用者様から、電車との乗り継ぎ時間に余裕を持たせたいという要望により、朝便を資料3の2ページのとおり変更。
- ②柏森8：06発便を、現在の交通状況にあわせて各バス停間の時刻を資料3の5ページのとおり変更。

○毎日運行便

実際の交通状況にあわせて「さくら総合病院前」から「健康文化センター」、「アピタ前」までの時刻を資料3の3ページのとおり変更。

(2) 北部ルート

○朝便

- ①萩島集会場7：09着を実際の交通状況にあわせて資料3の4ページのとおり変更。
- ②利用者様から北部ルートの遅延改善の要望があり、萩島集会場7：10発に前便との時間的余裕がないことから、時刻を資料3の4ページのとおり変更。
- ③運行支援協定企業様および一般の利用者様から要望があり、「さくら総合病院前」を経由とし、資料3の4ページのとおり変更。
- ④北部ルートの遅延改善および時間に余裕をもたせるため、資料3の4ページのとおり車両の入れ替えを行う。

○夕便

- ①利用者様から柏森駅19：56着が時刻通り到着せず電車の乗り継ぎがうまくできないとの意見から、時刻を資料3の5ページのとおり変更。
- ②実際の交通状況にあわせて資料3の5ページのとおり変更。
- ③実際の交通状況にあわせて資料3の5ページのとおり変更。

○産業団地 朝便

前便との間に時間的余裕を持たせるため、資料3の6ページのとおり車両の入れ替えをする。

○産業団地 夕便

産業団地西17：15発について、前後に時間的余裕がなく後続便への遅延発生があること、また利用者が少ないことから資料3の6ページのとおり廃止する。

なお、運行支援協定企業の利用者様は利用しておらず、廃止について了承済み。

6ページに参考として、平成29年4月～11月までの乗降者数の合計を記載。産業団地 夕便17：15発が93人であるのに対し、17：27発（産業団地西17：44発）は290人。

(3) 中部ルート

○朝便

- ①パロマ前6：30発便を、実際の交通状況にあわせた時刻の調整と江南駅での待機時間の確

保のため、資料3の7ページのとおり「大口町役場」発に変更。

7ページに参考として、平成29年4月から11月までの乗降者数の推移を記載。6:30発便の「パロマ工業前」～「伝右」までの乗車人数は、「パロマ工業前」が4月に1人、「外坪郷」が4月に2人、それ以外の5月～11月および「伝右」バス停の乗車人数は0人。それに対し、同便の「江南駅」降車数は、月平均43人。

②実際の交通状況および遅延の解消のため、資料3の7ページのとおり変更。

○毎日運行便

「萩島集会場」バス停の廃止と「名鉄自動車専門学校前」バス停新設、また一部便の短縮を行うことで待機時間の確保をするため、資料3の8ページのとおり変更。

9～10ページに参考として、平成29年4月から11月までの中部ルート日中便の乗降者数の推移を記載。

・「江南駅」方面

乗車数 1か月あたり平均16.3人、降車数 1か月あたり平均4.8人。

(他の便:乗車数 1か月あたり平均12～63名、降車数 1か月あたり平均4.25～21人)

・「パロー前」方面

乗車数が1か月あたり平均3.75人、降車数が22.8人。

(他の便:乗車数 1か月あたり平均4～18.3人、降車数 1か月あたり平均41.6～50.5人)

短縮を行う便は、中部ルート毎日運行便の中で最も利用者が少ない便になる。

短縮を行う便を利用していた方には、前後の運行便の利用、または北部ルートに乗車していただく。

②バス停の廃止

中部ルート「萩島集会場」停留所の廃止案

【廃止理由】

- ①350メートル間に停留所が3つあり、「萩島集会場」の利用者数は他の2つの停留所と比べて少ない。
- ②北部ルート「萩島集会場」停留所については、中部ルート「萩島集会場」よりも利用が多いため現行どおり利用可能。効率化をはかるため、利用者の少ない中部ルート「萩島集会場」停留所を廃止する。
- ③平成29年12月13日から「萩島集会場」停留所および「二ツ屋・萩島」停留所の利用者に対し、12ページのとおり本案に対するご意見を募ったが、特に意見はなかった。

【利用状況】

参考として、11ページに「萩島集会場」、「二ツ屋・萩島」、「二ツ屋」の各バス停の乗降者数をそれぞれ記載。「萩島集会場」は最も利用者数が少ない。

【利用者への事前説明】

中部ルート「萩島集会場」停留所は廃止となるが、北部ルート「萩島集会場」停留所は現行どおり利用することができるため、混乱が起らないよう事前の周知や停留所での誘導に努める必要がある。

平成30年2月以降、停留所での事前の案内文の掲示やバス車内、町ホームページ、広報紙等での事前周知を行う。

③中部ルート「名鉄自動車専門学校前」停留所の新設案

名鉄自動車専門学校からの要望により乗り入れを行う。資料3の13ページのとおり名鉄自動車専門学校の正面玄関近くに停留所を設置し、ロータリーを一周する形で乗り入れを行う。なお、それに伴うルートの変更については、資料3の10ページのとおり変更する。

【周知方法】平成30年2月以降

バス車内、ホームページ、広報紙での周知

<質疑応答>

- ・【工藤委員】資料3の2ページ<改正点>(2)について、改正後のさくら総合病院前発車時刻を8:25発とあるが、8:30発ではないか。
- 【平子主事補】そのとおり訂正させていただきます。
- 【工藤委員】資料3の10ページについて、路線図(案)についても誤りではないか。
- 【平子主事補】ルート図に誤りがございましたので、訂正いたします。

※ 正しい路線図を議事録とともに資料3訂正版として送付いたします。

- ・【松尾会長】資料3の8ページの中部ルート日中便の改正について、名鉄自動車専門学校に乗り入れを行うため、バロー前に行くことができないのか。
- 【平子主事補】中部ルート日中便はすべて同じ車両で運行しており、各便間の余裕時間もないことから、現行通りのダイヤに名鉄自動車専門学校へ乗り入れることは不可能であり、一部短縮を行った。
- 【松尾会長】名鉄自動車専門学校から希望があったとのことだが、バロー行よりも名鉄自動車専門学校へ乗り入れを行うことのほうがよいとの判断か。また、バロー行が一部なくなることについて意見は聞いているのか。
- 【平子主事補】そのように考えます。また、聞き取りは行っていません。
- 【前田委員】利用者目線で考えれば、利用目的は買い物があり必要な便ではないかと考えるが、松尾会長はどのように考えるか。
- 【松尾会長】名鉄自動車専門学校への乗り入れについてどれくらいの見込みがあるか考え、また利用者の生活スタイルを変えなければならないことが考えられる。萩島集会場停留所のように聞き取りを行ってから変更する必要があるのではないか。
- 【平子主事補】名鉄自動車専門学校への乗り入れにかかる利用者数の想定は出していないが、高齢化社

会を迎える中、高齢者の認知機能検査等の一部講習との接続が可能なダイヤとなっており、交通安全の面からも乗り入れを判断した。

→【岩崎課長補佐】利用者の担保はできている状況ではない。名鉄自動車専門学校が広告を出していただけるという話もあり優先させていただいた。

→【鵜飼課長】名鉄自動車専門学校から話をいただいたとき、免許返納はしたくないが車に乗らない方がバスに乗って歩いてくる方が結構いること、名鉄自動車専門学校の生徒が利用いただけるとのことから乗り入れを判断した。

→【工藤委員】補足だが、中部ルート日中便を走行する車両は、企業の方が多く利用する朝夕便として走行している。日中便を充実させたいが、そうすると夕方方の出発時刻がどんどん遅くなってしまう。限られた車両でさまざまなニーズに応えるためにご理解いただきたい。

→【松尾会長】名鉄自動車専門学校が入るから日中便がきつくなるという話か。それがなくても厳しいのか。

→【工藤委員】もともとのダイヤが厳しく、遅延が多く発生していた。

→【松尾会長】事務局の案のとおり施行し、利用者に代替案を提示してヒアリングを行い追加の報告を行うこと。

・【杉本委員（代理 廣瀬氏）】確認だが、中部ルートのルート変更について、道路管理者との調整はできているのか。

→【平子主事補】町道を通るルートであるので、調整はできている。

賛成多数で案のとおり承認

(4) 大口町コミュニティバス 無料 DAY 運行（案）について

報告者：事務局 町民安全課 平子主事補

【資料4に基づいて説明】

ふれあいまつり開催日の日曜日に行う。

なお、平成30年度は、平成30年11月4日（日）に実施する。

<質疑応答>

・【松尾会長】毎年行うのか。

→【平子主事補】年に1度、ふれあいまつり開催の日曜日に行う予定である。

→【松尾会長】南部ルート等小さい車両のため乗りこぼしはないか。

→【平子主事補】日曜日の運行であるので日中便のみとなり、そういった問題はないと考える。

→【松尾会長】普段から乗っている方と今回新しく乗った方をわけたアンケートをとるとのことか。

→【平子主事補】そのように行います。

全員一致で案のとおり承認

5 その他

・【井上委員】国道41号の6車線化工事について、引き続き工事期間が必要となるためご理解ご協力をお願いしたい。また、大口町コミュニティバスについては、非常によく地域の方が協力をしており、検討していると感じた。道路の方面からすると、バスについては定時性の確保がサービスとして必要となってくる。渋滞対策が定時性の確保の一要因となってくることから、道路部局と連携しながら原因分析を行う。また、無料デー以外にバスを一番増やすような形で自家用車からバスに乗り換えてもらうエコ通勤デー等バスが不便ではないということを広く知ってもらい、意見についてはウェブアンケート等を活用しながらコミュニティバスの利用促進を協力しながら行っていきたい。

→【松尾会長】エコ通勤デーについて、バスの本数を増やす方法以外に、車でない通勤方法を使うと少しおこづかいがもらえるような制度が豊橋ではやっており、いろいろなやり方がある。また検討していただきたい。